

公開シンポジウム「熊本地震・3ヶ月報告会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議、防災減災・災害復興に関する学術連携委員会
2. 共 催：防災学術連携体
3. 後 援：なし（予定）
4. 日 時：平成 28 年 7 月 16 日（土） 09：00～17：45
5. 場 所：日本学術会議 講堂
6. 分科会等：なし

7. 開催趣旨：

日本学術会議は、熊本地震を「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」の「緊急事態に準じるもの」とした。防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体（防災減災・災害復興に関する 50 学会のネットワーク）と連携して、5 月 2 日に熊本地震・緊急報告会を開催し、17 学会が調査速報の発表を行い、社会への情報発信・学会間の情報共有を進めた。

その後、熊本地震の余震は継続しており、雨による土砂災害の多発が懸念されている。また、各学会は地震・災害・救援・復興等に関わる調査や支援を続け、多くの知見を蓄積しつつある。

平成 28 年 4 月 16 日に発生した熊本地震から 3 ヶ月目にあたる 7 月 16 日に、日本学術会議と防災学術連携体に所属する学会の代表が集まり、この地震に関して蓄積した正確な情報を発信すると共に、関係者間で更なる情報共有をはかり、今後の防災減災・災害復興のための提案を検討することが重要である。このため、熊本地震・3 ヶ月報告会を開催する。

8. 次 第：（予定）

09:00 開会

司会

依田照彦*（日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授）

米田雅子*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学特任教授）

日本学術会議会長挨拶

大西 隆*（日本学術会議第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長挨拶

和田 章*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

行政関係者挨拶（予定）

発表（発表 14 分＋グループ質疑 10 分）（予定）

① 熊本地震について

地震学会、活断層学会、火山学会、気象学会（調整中）

② 地震に関する情報について

地球惑星科学連合、地理学会、地理情報システム学会（調整中）

③ 被災状況と対策について

自然災害学会、土木学会、建築学会、地震工学会、造園学会（調整中）

④ 土砂災害・水害と対策について

地盤工学会、日本地すべり学会、砂防学会、応用地質学会、
地質学会（調整中）

⑤ 避難・救助・救援について

地域安全学会、集団災害医学会、災害看護学会、救急医学会、
災害情報学会、自治体危機管理学会（調整中）

⑥ 復旧・復興について

計画行政学会、廃棄物資源循環学会、災害復興学会、
こども環境学会（調整中）

閉会挨拶

廣瀬 典昭（防災学術連携体代表幹事）

17：45 閉会

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「わが国の自治体組織の多様性を考える～日本型シティ・マネージャー
制度導入の可能性～」

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会行政学・地方自治分科会、日本行政学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 28 年 5 月 22 日（日）9 時 30 分～12 時 30 分

5. 場 所：明治大学駿河台校舎リバティタワー1 階 1011 教室

6. 分科会の開催：あり

7. 開催趣旨：

今後、わが国では人口減少が一段と進展することはいうまでもない。地方創生の動きにかかわらず、人口減少、高齢化、財源不足等により消滅へ向かう自治体は、確実に増加すると考えられる。このような状況下で、短期的には、住民への行政サービスの質を維持するためのマネジメント能力の向上、自治体相互間の連携策を模索すべきであろう。

また、長期的には、合併統合によるコミュニティの再編維持、あるいは、計画的な対応への道筋を考えるべきと思われる。そのような中で、短期的な行政能力の維持の一つの有効な方法としてシティ・マネージャー制度の導入や議員から首長を選ぶ方法の検討も必要であろう。

諸外国の制度は、前提も発想もわが国とは相当異なり即座に参考になるとは考えにくいものの、消滅、破綻を当然と受け止めているアメリカのシティ・マネージャー制度の創設理由と現状を学ぶことによって、わが国にも参考になるものと考えられる。

8. 次 第：

9:30 日本学術会議行政学・地方自治分科会委員長挨拶

大山 耕輔*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）

報告 1「シティ・マネージャー制度の展開と国際的潮流」

外山 公美*（日本学術会議連携会員、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニ
ティ政策学科教授）

報告2「The Professional City Manager System in US Local Government」
Clay Pearson（テキサス州ピアランド市シティ・マネージャー）

報告3「日本の地方行政とシティ・マネージャー—自治体の運動量と活動幅からの検討」

中邨 章（明治大学名誉教授）

コメンテーター：今川 晃（同志社大学教授）

司 会：西村 美香*（日本学術会議連携会員、成城大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム 「被災史料・震災資料の保存利用と公文書管理」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会、日本歴史学協会
2. 後 援 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（調整中）、日本アーカイブズ学会（調整中）
3. 日 時 平成 28 年 6 月 25 日（土）13：30～17：30
4. 場 所 駒澤大学 駒沢キャンパス 1-204 教場
5. 分科会の開催 予定なし

6. 開催趣旨

東日本大震災から 5 年がたった。大地震とそれに伴う大津波に、東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故が加わり未曾有の大災害となり、その復興・復旧への道のりは未だ厳しい状況にある。そこには、史資料が消滅したのみならず、生活地域そのものが消え去ってしまった場合が少なくない。私たちは、この大災害から多くを学び、また学ばなくてはならないという思いを持ち、史料の保存利用問題に取り組み、地震史料の発掘や歴史地震の研究も進めてきた。

そうしたなかにも、私たちの住む列島は災害列島の名に相応しく、東日本大震災以後も大小の災害に見舞われている。間近なところでは、昨年 9 月の茨城県常総市の大洪水の発生による地域史資料の被災が想起されるが、速やかに組織的なレスキュー活動が立ち上がった一方で、津波による被災とは異なる救済作業の困難さもあると聞く。青木氏の報告では、東日本大震災被災自治体と常総市を取り上げて、被災行政文書の救済と公文書管理の在り方を問う。

被災史料の救済活動に、ボランティアの参加と各地の史料ネットの存在はすっかり定着してきたが、「史料ネットという在り方」のもとを辿れば阪神・淡路大震災に遡る。昨年は阪神・淡路大震災から 20 年目の年であったが、年月の経過は、震災関連資料の管理・公開、そして選別・廃棄に関わる問題の発生を招くことが懸念される。川内氏の報告では、こうした震災関連資料の現状と課題を取り上げる。

一方、本年は 2011 年 4 月に施行された「公文書管理法」の見直しの年である。既に関係諸団体等において種々検討が行われているが、歴史学に携わる立場で同法の成立・運用に関心を持ってきた私たちは、この見直しの機会に改めて問題点を考える必要がある。井上氏の報告では、公文書に記載された公人やそれに付随する情報の開示のあり方について、利用者の観点から同法の問題点を照射し、法の運用のあり方を考える。

これらの報告を通じて、被災史料の救出活動の新たな展開を見据え、被災を防ぐという

日常的な活動の重要性を改めて認識するとともに、公文書の管理・公開問題も含め、史資料の保存利用の在り方を広く議論する機会としたい。

7. 次第

13 : 30～13 : 35 開会挨拶

高埜利彦*（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

13 : 35～13 : 45 趣旨説明

佐藤孝之（東京大学史料編纂所教授、日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13 : 45～15 : 45 報告

「被災した組織アーカイブズの消滅と救助・復旧に関する検証

—東日本大震災の基礎自治体と常総市の事例—」

青木 睦*（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構国文学研究資料館研究部准教授）

「阪神・淡路大震災被災地における震災資料の現状と課題

—民間資料と行政文書について—」

川内 淳史（神戸大学文学部特任助教）

「公文書管理と個人情報保護」

井上 正也（成蹊大学法学部准教授）

15 : 45～16 : 00 休 憩

16 : 00～17 : 25 質 疑

17 : 25～17 : 30 閉会挨拶

木村茂光（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部史学科教授、日本歴史学協会会長）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の報告者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「コミュニティを問い直す——社会関係資本の光と影」
の開催について

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
2. 共 催 日本社会学会、九州大学大学院比較社会文化研究院・地球社会統合科学府
3. 日 時 平成 28 年 10 月 9 日（日） 13 時 00 分～17 時 00 分
4. 場 所 九州大学伊都キャンパス
5. 分科会 予定なし

6. 開催趣旨

コミュニティや社会関係資本が大切だというとき、凝集的な関係や集団が念頭に置かれる場合もあれば、緩やかな橋渡し型のつながりが強調されることもある。それが主として指し示しているのは、果たして閉じられたコネなのか、あるいは開かれたネットワークなのか。コネと言えば悪いイメージがつきまとい、ネットワークと言えば聞こえがいいが、この2つにいったいどれほどの違いがあるのだろうか。2015年1月、「ジュ・スイ・シャルリ」と謳った大規模なデモの先頭には欧州の指導的な人物たち、例えばオランダ仏大統領やメルケル独首相らの姿が見られた。ではこうした連帯は果たして世界の人々をつなぐものなのか、それとも人類の分断を深刻化させてしまうものなのか。本シンポジウムでは上のような問題を念頭に置いて、社会学にとって長い間重要であり続けているコミュニティという概念と、そして近年にわかに注目度を上げるようになった社会関係資本という概念の双方についての議論を共同で深めていく。それによって、狭い意味でのコミュニティ論、社会関係資本論、ネットワーク論の専門を超えた新たな地平が拓けてくるものと期待される。

本シンポジウムは比較的自由な討論形式の部会とする。シンポジウムでは、まずパネルの方々にそれぞれ短めの発題をいただき、その後座談会形式（ラウンドテーブル形式）で討論を繰り広げていく。本シンポジウムは一般市民への公開とするが、これにより議論の幅は学会・学界の枠に留まることなく、より大きなコミュニティへ、そして社会へと広がっていくことになろう。

7. 次 第

13:00～17:00

- 司会 友枝 敏雄*（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院文人間科学研究科教授）
 町村 敬志*（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）
 山田 真茂留*（日本学術会議連携会員、早稲田大学文学学術院教授）

パネルディスカッション

今田 高俊*（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

佐藤 嘉倫*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授）

堤 かなめ（九州国際大学元教授、福岡県議会議員）

三隅 一人（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

矢澤 修次郎*（日本学術会議連携会員、一橋大学名誉教授、成城大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の報告者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム 「歴史総合をめぐって」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会、日本歴史学協会
2. 日 時 平成 28 年 10 月 22 日 (土) 13 : 30～17 : 30
3. 場 所 駒澤大学 駒沢キャンパス 1-204 教場
4. 分科会の開催 予定なし

5. 開催趣旨

次期の学習指導要領において、高校における世界史必修を見直し、近現代史分野を中心に日本史と世界史を融合させた「歴史総合」を新たに必修科目として設けることが示されようとしている。日本の歴史教育におけるこの大きな転機を前にして、今日に至るまでの議論を振り返るとともに、来たるべき「歴史総合」の望ましいあり方について議論する。

6. 次第

司会 君島和彦* (日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授)

13 : 30～13 : 40 開会挨拶

高埜利彦 (日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授)

13 : 40～15 : 45 報告

油井大三郎 (日本学術会議特任連携会員、東京女子大学現代文化学部教授)

近藤孝弘 (日本学術会議連携会員、早稲田大学教育学部教授)

西村嘉高 (青山学院高等部教員)

15 : 45～16 : 00 休 憩

16 : 00～17 : 20 質 疑

17 : 20～17 : 30 閉会挨拶

木村茂光* (日本学術会議連携会員、帝京大学文学部史学科教授、日本歴史学協会会長)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「政治思想における「アジア」問題
——西洋と東洋の相互反照」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会
2. 共 催：日本政治学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 10 月 1 日（土）13 時 20 分～15 時 20 分
5. 場 所：立命館大学大阪いばらきキャンパス
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

近年、グローバル化の趨勢のもとで、民族紛争やイスラム急進派によるテロリズムが活発になり、一面ではかつて S. ハンチントンが説いた「文明の衝突」という暗い展望が実現したかのような様相も見せている。しかし、西洋文明が息づく空間と、その「外」の領域としての「アジア」との区別は、そもそも古典古代における政治思想の伝統の誕生と、密接に関連していた。

この分科会ではまず、古代ギリシアを対象とする名和報告が、この「アジア」観がどのようにして出発したかを検証する。政治共同体における連帯の意識と、その根柢をなす同胞意識は、専制王国としてのペルシアと、みずからとを区別することによって支えられていた。市民の平等性を基礎とする「政治」観念の成立と、不自由な空間としての「アジア」観とは同時に成立し、おたがいを支えあっていたのである。

そして安藤報告は、18 世紀フランスの政治思想における中国モデルの意味を探るところから、近代の西洋政治思想における「アジア」観の問題を考察する。

フィジオクラットから革命期にまで至る、フランスの政論家たちが、東アジアの中華帝国である中国に関心をもち、その官僚制度や、学問が政治に対して果たす役割について注目していたことは有名であるが、そのことが西洋の政治思想の側にどのような影響を与えていたのか。この問題を解明しようとする。

さらに近代西洋の「アジア」観は、近世・近代の日本において受容され、独自の展開を見せることになった。松田報告は、徳川時代の儒者・文人から明治の思想家に至るまで、そこで展開した「アジア」観とその政治思想との関連を明らかにするものである。

このように、当該問題は、古代西洋において発生した「アジア」観が、近代における「アジア」の再発見を通じて編成し直された過程と、さらにそれが「アジア」の一国である日

本に受容され、「アジア」自身の自己認識を変えていった過程として、学問的な探求心を広く誘うものである。以上の三報告を通じて、広い視野から考察と討議を進め、現代における異文化間の対立現象を理解し克服するための知恵をくみだすことをめざす。

8. 次 第：

13:20～14:20 報 告

名和 賢美（高崎経済大学経済学部准教授）

「古代ギリシア人の「アジア」観と同胞意識の深化」（仮題）

安藤 裕介（日本学術振興会特別研究員）

「18 世紀フランスにおける統治改革と中国モデル——フィジオクラットからイデオログまで」（仮題）

松田 宏一郎*（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

「日本の近世・近代における「アジア」」（仮題）

14:20～15:20 ディスカッション

コメント：渡辺 浩*（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）

司 会：川崎 修*（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2016」
の開催について

1. 共 催：日本学術会議農学・食料科学・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、農芸化学分科会、農学委員会農業経済学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、食の安全分科会、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク
3. 日 時：平成28年7月4日（月）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議6-C（1）（2）（3）会議室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災で引き起こされた東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ放出され、森林、土壌、水域が広範囲に汚染された。この複合災害から5年が経過して、環境放射能レベルは確実に減少しており、安全モニタリングの普及により市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通しておらず、未だ多くの問題が残っている。すなわち、安全規制をクリアした食品しか流通していないにも関わらず、消費者は福島県産の食料品に未だ不安を抱いており、食料生産活動や流通の現状は未だ復興から遠いものがある。5回目となる本フォーラムでは、食と放射線リスクコミュニケーションに関するテーマを中心に、福島復興の加速に資する課題に取り組む。
7. 次 第：
13:00~13:10 開会の挨拶
渡部 終五*（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特任教授）
13:10~13:35 福島原発事故対応の現実と課題-私たちは福島から学べたのか
長谷川 有史（福島県立医科大学医学部教授）
13:35~14:00 長崎大学川内村拠点における放射線健康リスクコミュニケーションの活動
折田 真紀子（長崎大学医歯薬学総合研究科助教）
14:00~14:25 放射性物質の健康リスク：市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性（仮題）
新山 陽子*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）
14:25~14:35 （休憩）

14:35~15:00 放射性物質に対する食と農をめぐる消費者意識

安永 円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

15:00~15:25 市民と放射能問題（仮題）

栗田 和久（日本放送協会制作局企画課開発ディレクター）

15:25~15:50 地域社会と経済の復興過程

八木 信行（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

15:50~16:50 総合討論

司会 中嶋 康博*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:50~17:00 閉会の挨拶

澁澤 栄* （日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

8. 関係各部の承認有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「スマート・メガスケール植物工場ネットワークによる国際競争力のあ
る農作物生産」の開催について

1. 主 催：農学委員会農業生産環境工学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業
情報システム学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本農業工学会、日本生物環境工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農
業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会、千葉大学環境健康フ
ィールド科学センター（千葉大学植物工場拠点）、大阪府立大学植物工場研究
センター、愛媛大学植物工場研究センター（予定）
4. 日 時：平成28年7月15日（金）13：30～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

太陽光植物工場は、二酸化炭素・気温・湿度等を対象とした環境制御技術と ICT・自動化・機械化等の先端工業技術との融合により、地域における農作物の生産効率を最大化するシステムとして確立されつつある。他方、商業的成功を前提とした生産システムであるため、近年では、競争力強化のための超大規模化（経営・生産規模の拡大）が重要検討事項となっている。本シンポジウムでは、国際競争力を有する農作物生産システムとして従来の約100倍の栽培面積（100 ha）を有するメガスケール植物工場を念頭におき、その社会実装モデルを提案するとともに、そこで必要とされる技術的要素と社会基盤整備について議論する。

8. 次 第：

司会：清水 浩*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

13：30 開会の挨拶

澁澤 栄*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

13：40 「ICTを基盤とした大規模施設園芸による産業競争力強化」（仮題）

神成淳司（内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室室長代理、慶應義塾大学環境情報学部准教授、同 医学部准教授(兼担)）

14：05 「大規模施設園芸における知能（知農）化の意義」（仮題）

澁澤 栄*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

14 : 25 「ロボット化された植物診断技術が可能にする大規模生産管理」
高山弘太郎*（日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科准教授）

14 : 45－14 : 55（休憩）

14 : 55 「施設生産の大規模化の現状と展望」
伊藤 保（(株)三菱総合研究所 社会公共マネジメント研究本部主席研究員）

産学連携によるスマート・メガスケール植物工場の具体化に向けた論点

15 : 15 「スマート・メガスケール植物工場研究会について」
久枝和昇（スマート・メガスケール植物工場研究会事務局長、アグリコンサルテ
ィング(株) 社長、千葉大学客員准教授）

15 : 25 「関連産業会が求める各種基盤整備」（仮題）
石黒 功（イノチオホールディングス(株) 代表取締役社長）
福田晴久（ネポン(株) 代表取締役社長）
安井一郎（AGC グリーンテック(株) 代表取締役社長）

15 : 55 「マーケットを捉えた生産・加工・流通」（仮題）
藤井滋生（(株)アグリインキュベーター 社長、元イオン農産部長・リテール取締
役・アグリ創造社長）

16 : 15 総括
橋本 康*（日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授）

16 : 25 閉会の挨拶
大政謙次*（日本学術会議第二部会員、愛媛大学農学部客員教授）

16 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会等委員）

公開ワークショップ「生命科学研究の総合的推進：日本医療研究開発機構（AMED）
に期待する」の開催について

1. 主 催：日本学術会議二部生命科学における公的資金のあり方検討分科会
2. 共 催：日本学術会議二部基礎医学委員会
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成28年7月26日（火）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：生命科学における公的資金のありかた検討分科会では、我が国の生命科学領域の研究者コミュニティの学術基盤充実、人材育成などに向け、公的資金がどのように配分されるべきかについて意見を表出すべく、検討を続けている。昨年4月に発足した日本医療研究開発機構（AMED）は、平成28年度予算が1500億円を超え、科研費に次ぐ多額の研究開発予算を有し、医学関連のトップダウン研究費を一本化した一大Funding Agencyとして多大な期待が寄せられる一方で、未だ誤解も多いように思われる。AMEDの目指すものが、未だに研究者コミュニティに十分理解されていないことが、その原因の1つに考えられる。そこで、本分科会では、AMEDの理事長に加え、AMEDの基礎から実用化までの連続的な研究支援体制を支えるプロジェクト・ディレクター、プロジェクト・スーパーバイザー、プロジェクト・オフィサーを迎え、AMED内部からの運営改革に向けたご意見をいただく。さらに、関係省庁の担当者に加え、学術会議会員・連携会員との議論を通し、学術コミュニティから、AMEDの研究支援のあり方について、よりよい提案ができることを目指す。

8. 次 第：

- 13:00～14:30 1部 司会 福田裕穂*（日本学術会議二部会員、東京大学理学系研究科長・教授）
- 13:00 開会の挨拶 長野哲雄*（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、東京大学創薬機構客員教授）
- 13:05 AMED創設にいたる経緯、期待するもの（仮題）
和泉 洋人（内閣官房健康・医療戦略室長、内閣総理大臣補佐官）
- 13:15 AMEDのミッション：データシェアリングによる研究開発の加速と課題
末松 誠*（日本学術会議連携会員、日本医療研究開発機構（AMED）理事長）
- 14:00 オールジャパンでのバイオ医薬品開発
宮田 敏男（日本医療研究開発機構（AMED）PS、東北大学医学研究科教授）

14:30 オールジャパンでの医療機器開発

菊地 眞 (日本医療研究開発機構(AMED) PD、医療機器センター理事長)

14:30 休憩

14:45～16:45 2部 司会 本間さと* (日本学術会議第二部会員、北海道大学脳科学研究
教育センター招聘教授)

宮坂信之* (日本学術会議第二部会員、東京医科歯科大学名誉
教授)

14:45 パネルディスカッション I

「医療開発研究予算の一本化と基礎から実用化までの研究支援体制の成果」

神ノ田 昌博 (厚生労働省医政局研究開発振興課長) (依頼中)

菱山 豊 (日本医療研究開発機構(AMED) 執行役)

宮田 敏男 (日本医療研究開発機構(AMED) PS、東北大学医学研究科教授)

菊地 眞 (日本医療研究開発機構(AMED) PD、医療機器センター理事長)

福島 雅典* (日本学術会議連携会員、日本医療研究開発機構(AMED) PO、財団法人
先端医療振興財団臨床研究情報センター長)

辻 省次* (日本学術会議連携会員、東京大学医学研究科教授、東大病院ゲノム
医学センター長)

15:45 パネルディスカッション II

「研究シーズの連続的創出のための基礎生命科学研究支援のあり方」

原 克彦 (文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長)

永井良三* (日本学術会議第二部会員、自治医科大学学長)

甲斐知恵子* (日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授)

須田年生* (日本学術会議第二部会員、熊本大学国際先端医学研究機構機構長・
卓越教授)

小原雄治* (日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所特任教授)

菱山 豊 (日本医療研究開発機構(AMED) 執行役)

16:45 総合討論とまとめ 本間さと* (日本学術会議第二部会員、北海道大学脳科学研究
教育センター招聘教授)

16:55 閉会の挨拶 長野哲雄* (日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授・東京大学
創薬機構客員教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会等委員)

公開シンポジウム「気候変動と森林生態系の持続性」(仮題)
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会林学分科会
2. 共 催：森林・木材・環境アカデミー、NPO 法人才の木
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年7月27日(水) 13:00-17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：地球温暖化は、地球規模での熱や水の動態に影響を与えることから、異常高温や異常低温、豪雨や干ばつなどの異常気象との関連が指摘されている。温暖化の原因が、化石資源の大量消費によることから、二酸化炭素濃度やオゾン濃度の上昇、窒素降下物の増大など、さまざまな環境要因が併行して変化する。森林生態系への影響は、樹木の物質生産や繁殖などへの直接的なものだけではなく、病虫獣害や斜面崩壊などによって甚大な被害をもたらす可能性がある。林業の場合には主伐までに長期間を要するため、気候変動を想定した造林適地の選択も必要になる。気候変動や異常気象の発生、森林被害等について、どこまで予測されているのか、それに対してどのような準備がされているのか、準備するためにはどのような情報や体制、施策が必要なのかなど、今後予想される気候変動の森林生態系への影響に関する知見を共有するとともに、森林生態系の持続性を高めるための備えについて討議する機会としたい。
8. 次 第：
趣旨説明・司会
丹下 健* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科長・教授)

基調講演

気候変動の森林生態系への影響

中静 透 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院生命科学研究科教授)

講演

- 1 気候変動と気象害・土砂災害リスク
坪山 良夫 (国立研究開発法人森林総合研究所研究コーディネータ)
- 2 気候変動と樹木の物質生産
伊豆田 猛 (東京農工大学大学院農学研究院教授)
- 3 気候変動に対応した森林資源管理の適応技術開発
重永英年 (林野庁森林整備部指導課主席研究企画官)

総合討論

気候変動と森林生態系の持続性

モデレータ 竹中 千里*（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

コメンテータ 田中 和博*（日本学術会議連携会員、京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授・副学長）

閉会挨拶

川井 秀一*（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館（思修館）学館長・特定教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「農学の最前線－先端科学と応用技術－」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・近畿地区会議（調整中）
2. 共 催：京都大学大学院総合生存学館（思修館）
3. 後 援：日本学術振興会学術システム研究センター農学専門調査班
4. 日 時：平成28年8月6日（土）13：30－17：30
5. 場 所：京都大学東一条館 思修館ホール
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：人類の生活の糧を担う学問である農学分野は、分子生物学やナノ材料・計測技術等の発展に伴い、人類の生存にとって不可欠な食料、生命、環境を対象とする総合科学として益々その重要度を増している。本公開シンポジウムでは、一般市民を対象にして農学分野の先端科学と応用技術について、最近の発展をわかりやすく解説し、その未来を展望する。講演では、市民生活と関連が深く、市民の関心が高い TPP の話題、遺伝子資源の利用と保存、感染症、遺伝子組み換え技術、セルロースナノファイバー等を取り上げる。
8. 次 第：
講演
 - 1) 先端科学でイネの収量はどこまで向上できるか？
大杉 立*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）
 - 2) ゲノム科学が農学にもたらすもの：植物ゲノムの研究と応用
倉田のり*（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事）
 - 3) ヒトと動物の感染症－人間社会への影響－
甲斐知恵子*（日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授）
 - 4) ゲノム情報の利用とその改変によるカイコの遺伝子機能解明と新たな昆虫産業への展開
嶋田 透*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
 - 5) 未来の車は植物で作る
矢野浩之（京都大学生存圏研究所教授）
 - 6) 植物の反応をみる－細胞～地球環境－
大政謙次*（日本学術会議第二部会員、愛媛大学農学部客員教授）

質疑応答

総合司会

川井秀一*（日本学術会議第二部会員、近畿地区会議所属会員、京都大学総合生存学館・学館長）

閉会挨拶

9. 関係部の承認の有無：第二部承認、科学者委員会メール審議中

（*印の登壇者は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2016」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：（予定）
一般社団法人日本人間工学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、一般社団法人電気学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、非特定営利活動法人日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、公益社団法人日本冷凍空調学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会
3. 日 時：平成 28 年 7 月 7 日（木）～ 7 月 8 日（金）10:00～18:00
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 5 室
5. 分科会の開催：予定なし
6. 開催趣旨：
わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で 40 年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。平成 28 年度は、第 46 回として日本人間工学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「技術と倫理」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている「安全の理念」、「安全目標」、「交通事故ゼロの達成」、「遺棄・老朽化学兵器」の検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。
7. 次第（案）：

第1日目：7月7日（木）

挨拶 12:30～12:40

日本学術会議 総合工学委員会委員長

渡辺 美代子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構執行役）

安全工学シンポジウム 2016 実行委員長

佐相 邦英（一般財団法人電力中央研究所 原子力技術研究所 ヒューマンファクター研究センター長）

特別講演 12:40～13:40

「技術者倫理（仮）」

札幌 順（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

パネルディスカッション 14:00～17:00

PD-1「安全・安心と技術者倫理・研究者倫理」（連携PD）

オーガナイザ：佐相 邦英（一般財団法人電力中央研究所 原子力技術研究所 ヒューマンファクター研究センター長、日本人間工学会安全人間工学委員会委員）

司会：大場 恭子（日本原子力研究開発機構(JAEA)企画調整室技術副主幹、日本原子力学会倫理委員会委員長）

パネリスト：

- | | | |
|------------|-------|---|
| 1. 特別講演者 | 札幌 准 | （東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授） |
| 2. 土木学会 | 丸山 信 | （福田道路（株）常務執行役員） |
| 3. 電気学会 | 大来 雄二 | （金沢工業大学科学技術応用倫理研究所客員教授） |
| 4. 日本建築学会 | 佐藤 光宏 | （（株）竹中工務店監査役） |
| 5. 日本人間工学会 | 横井 孝志 | （日本女子大学家政学部被服学科教授） |
| 6. 日本原子力学会 | 大場 恭子 | （日本原子力研究開発機構(JAEA)企画調整室技術副主幹、日本原子力学会倫理委員会委員長） |

オーガナイズドセッション 10:00～12:00

OS-1 事故の再発防止とは～事故防止のあり方を考える

加山 宏（事故防止のあり方を考える会代表）

OS-1-1 事故の再発防止とは～事故防止のあり方を考える

加山 宏（事故防止のあり方を考える会代表）

OS-1-2 高齢者と鉄道の安全対策

加山圭子（踏切事故遺族の会「紡ぎの会」代表）

OS-1-3 踏切人検知システムの必要性和運用課題

松田俊也（マイクロテック株式会社顧問）

OS-1-4 高齢者の鉄道事故に関する最高裁判決の検討

米倉 勉（渋谷共同法律事務所弁護士）

OS-1-5 事故調査の結論と裁判の結果について

本江 彰（日本ヒューマンファクター研究所研究主幹）

OS-1-6 事故事例の蓄積から学ぶ～頭部外傷のくり返しに着目して

内田 良（名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授）

OS-1-7 事故の再発防止から未然防止 ～リスクアセスメントの活用その2

高杉 和徳（製品安全コンサルタント）

オーガナイズドセッション 13:50～17:20

OS-8 自動車の自動運転システム

永井正夫*（日本学術会議連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長）

OS-8-1 自動運転関連プロジェクトの紹介と JARI の取り組み

永井正夫*（日本学術会議連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長）

OS-8-2 自動運転におけるダイナミックマップの役割と標準化・開発の動向

高田 広章（名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

OS-8-3 自動運転車の制御系設計における諸課題

毛利 宏（東京農工大学工学府機械システム工学専攻教授）

OS-8-4 自動運転車の安全性と社会的受容性向上のためのヒューマンファクター課題

北崎 智之（産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター長）

OS-8-5 ビジネス検討会の概要と出口戦略について

鎌田 実（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

OS-8-6 道路交通における自動運転の制度設計

須田 義大*（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

OS-8-7 自動運転の事故をめぐる民事責任と製造物責任

中山 幸二（明治大学法科大学院教授）

OS-8-8 海外の動向と日本の取り組み

内村 孝彦（ITS Japan 企画グループ理事）

オーガナイズドセッション 15:00～17:00

OS-10 老朽化および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理

藤原修三*（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門研究顧問）

OS-10-1 化学兵器／Stockpile から Non-stockpile へ

朝比奈 潔（元神戸製鋼所 CWD プロジェクト部主監）

OS-10-2 TNT 汚染土壌のバイオレメディエーション（仮題）

高木和広（農業環境技術研究所上席研究員）

OS-10-3 職業性ヒ素暴露の生物学的モニタリング法と無機ヒ素の無毒化処理への実践的応用

山内 博（北里大学環境医科学群教授）

OS-10-4 化学兵器の廃棄から発生するヒ素含有廃棄物の処理と処分（仮題）

水野光一（産業技術総合研究所主席評価役）

その他、OS、一般セッションを 9:30～17:20 に開催。

第2日目：7月8日（金）

特別講演 1 12:30～13:30

「レジリエンス・エンジニアリングと Safety-II」

小松原明哲（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

パネルディスカッション 14:00～17:00

PD-2「工学システムに対する社会の安全目標」

オーガナイザー：大場恭子（日本原子力研究開発機構(JAEA)企画調整室技術副主幹、日本原子力学会倫理委員会委員長）

司会：未定

パネリスト：

1. 特別講演者 小松原明哲（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）
2. 芳賀 繁（立教大学現代心理学部教授）
3. 北村 正晴（東北大学名誉教授）

（その他調整中）

オーガナイズドセッション 10:00～12:20

OS-12 安全目標

松岡 猛*（日本学術会議連携会員、宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師）

OS-12-1 安全の理念と安全目標

向殿政男*（日本学術会議連携会員、明治大学名誉教授）

OS-12-2 社会安全目標の構造

野口和彦（横浜国立大学環境情報研究院教授）

OS-12-3 基準値と安全目標の科学

村上道夫（福島県立医科大学医学部准教授）

OS-12-4 化学プラントの安全目標の考え方

中村昌允（東京工業大学特任教授）

OS-12-5 発電用原子炉の安全目標の今後の課題

成合英樹*（日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授）

OS-12-6 情報システムと安全目標

柴山悦哉*（日本学術会議第三部会員、東京大学情報基盤センター教授）

OS-12-7 「10のマイナス5乗」の過去・現在・未来

岸本 充生（東京大学公共政策大学院特任教授）

その他、OS、一般セッションを10:00～17:00に開催。

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「総合工学シンポジウム2016

知の統合を如何に達成するか—総合工学の方向性を探る—の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会

2. 共 催：未定

3. 後 援：未定

4. 日 時：平成28年7月20日（水）13：00～17：00

5. 場 所：日本学術会議講堂 外5室

6. 委員会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

昨今、新しい知の創出に文理融合、複合領域融合の重要性が指摘されている。その困難さは単純ではなく共通の認識であるが、既に部分的に達成されているケースもある。第I部の講演では、知の統合にいかなる意義があるのか、それらはいかにして達成されるのか、残された課題は何かを学び共通の認識とする。第II部では、これらの共通認識をもとに、総合工学の目指すべき方向について各パネリストが語り、討議を行う。

8. 次 第：

司会 浅間 一*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

13:00-13:10 開会挨拶

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

第I部

13:10-14:00 基調講演 構成科学としての工学（設計科学）

吉川 弘之（日本学術会議栄誉会員、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）特別顧問）

14:00-14:30 「知の統合」と「知の統合学」をめざして

舘 暲（東京大学名誉教授）

14:30-14:40 休憩

司会 為近 恵美*（日本学術会議連携会員、横浜国立大学成長戦略研究センター教授）

14:40-15:10 情報学から見た工学分野の融合について

喜連川 優*（日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所所長）

15:10-15:40 東日本大震災後の被災地支援研究

似田貝 香門（東京大学名誉教授）

15:40-15:45 休憩

司会 所 千晴*（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

第 II 部ーパネル討論 15:45-16:55

ファシリテータ：吉村 忍*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科副研究科長）

パネリスト：

奥村 次徳*（日本学術会議連携会員、東京都立産業技術研究センター理事長）
リーディング大学院“オールラウンド型”の成功事例から

大倉 典子*（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授）

かわいい人工物の系統的解析の視点から

狩野 光伸（日本学術会議特任連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

医工連携及び文理融合プロジェクトの経験をもとに

瀬山 倫子（日本学術会議連携会員、N T T先端集積デバイス研究所主幹研究員）

ICT 向けものづくり産業の視点から

16:55-17:00 閉会挨拶 渡辺美代子*（日本学術会議第三部会員、科学技術振興機構副理事）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「市民と科学者で考えるこれからのエネルギー」
の開催について

1. 主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同
触媒化学・化学工学分科会、公益社団法人化学工学会
2. 共催：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、
公益社団法人応用物理学会、公益社団法人石油学会、
一般社団法人触媒学会、一般社団法人日本エネルギー学会、
一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人日本伝熱学会
3. 日時：平成28年9月2日（金）13：00～17：45
4. 場所：日本学術会議講堂 外3室
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：

現下のエネルギー情勢は、電力料金の上昇、火力発電に大きく依存する電源構成の脆弱性、中東地域の政情不安定など、エネルギー需給に対する懸念は依然として大きい。一昨年4月にはエネルギー基本計画が、昨年7月にはこれを受けた長期エネルギー需給見通しが決定され、2030年に目指すべき到達点が示されたが、そこに至るまでの道のりは明らかではなく、決して平たんではないことが予想される。

こうした状況のもとで、できる限り多くの国民がエネルギー問題について真剣に考え、様々なエネルギー選択肢が持つメリットとリスクを理解する重要性がますます高まっている。しかしながらエネルギー問題については知識の細分化が進み専門家との間の溝は広がるばかりで、種々の要素を総合して現状の課題を捉えることは難しい。本シンポジウムは、エネルギーに関連する分野の中から、特に、2030年に向けての解決策となり得る技術の導入にまつわるいくつかのテーマを取り上げ、現状や今後の課題、2030年までのシナリオについての講演とパネルディスカッションを行い、次世代のエネルギーを多様な視点から考える場を提供することを目的としている。

7. 次 第：

13:00 開会挨拶

阿尻 雅文*（日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究
機構教授）

13:05 趣旨説明

藤岡 恵子*（日本学術会議連携会員、株式会社ファンクショナル・フルイッド

代表取締役)

- 13:20 講演 「技術戦略・産業政策の視点から考えるエネルギー社会のこれから(仮)」
坂田 一郎(東京大学工学系研究科教授、東京大学政策ビジョン研究センター教授)
- 13:50 講演 「水素の利用と供給について(仮)」
辰巳 敬*(日本学術会議連携会員、独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長)
- 14:20-14:30 (休憩)
- 14:30 講演 「次世代自動車技術」
大聖 泰弘(早稲田大学理工学術院教授)
- 15:00 講演 「種子島の事例に見るエネルギーと経済循環の試み(仮)」
菊池 康紀(東京大学総長室総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座特任准教授)
- 15:30 講演 「エネルギーシステムと社会実装」
梶川 裕矢(東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科准教授)
- 16:00-16:10 (休憩)
- 16:10 パネルディスカッション
- 17:40 閉会挨拶
藤田 照典*(日本学術会議第三部会員、三井化学株式会社シニア・リサーチフェロー、特別研究室長)
- 17:45 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

市民公開講演会『科学技術の光と影』－市民との対話から考える科学技術と自動運転シ
テムの未来－の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部、中部地区会議、豊橋技術科学大学
2. 共 催：(予定) 公益財団法人大林財団
3. 後 援：(予定) 公益財団法人日本学術協力財団、愛知県教育委員会、豊橋市、豊橋商
工会議所
4. 日 時：平成28年8月2日(火) 13:30～17:00
5. 場 所：ホテルアソシア豊橋 5階 ザ ボールルーム (愛知県豊橋市)
6. 分科会等：第三部会を開催予定
7. 開催趣旨：
科学技術の開発と社会への導入の速度が極めて速く、社会の受容が技術開発に追従
できない場合が生じており、社会へのインパクトを考慮した技術開発と、社会への導
入後のフォローアップが今後一層強く求められている。
科学技術をひろくわかりやすく示し、科学者・技術者と市民との対話の機会を提供
することを目的とし、人工知能(AI)を作用した新技術を取り上げ、人間の認知機能
などの学術的観点、ものづくりなどの観点から議論する。
8. 次 第：(予定)
13:30 開会
司 会
井上 光輝 (豊橋技術科学大学理事・副学長)

13:30 開会挨拶
川合 真紀*(日本学術会議第三部会員・中部地区会議所属会員、大学共同利用機関法
人自然科学研究機構副機構長・分子科学研究所所長)

13:40 日本学術会議会長・豊橋技術科学大学学長挨拶
大西 隆*(日本学術会議第三部会員・中部地区会議所属会員、豊橋技術科学大学学
長)

13:50 基調講演「基礎科学研究を支えるテクノロジー－宇宙線関連研究を例に－」

梶田 隆章（日本学術会議連携会員、東京大学宇宙線研究所長・教授）

14:35 講演1「自動運転技術による新たなモビリティ社会の実現
－ 知能化するクルマと人との進化した協調にむけて －」

加藤 光久（トヨタ自動車取締役副社長）

15:05 講演2「機械に責任を持たせられるか？－自動車、ロボット、ブレイン・マシン インターフェース－」

下條 信輔 (Caltech Baltimore Professor、豊橋技術科学大学特別招聘教授)

15:45 パネルディスカッション「科学技術の光と影」

コーディネーター

土井 美和子*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事）

パネリスト

梶田 隆章（日本学術会議連携会員、東京大学宇宙線研究所長・教授）

加藤 光久（トヨタ自動車取締役副社長）

下條 信輔 (Caltech Baltimore Professor、豊橋技術科学大学特別招聘教授)

大西 隆*（日本学術会議第三部会員・中部地区会議所属会員、豊橋技術科学大学学長）

16:55 閉会挨拶

相原 博昭*（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院理学系研究科教授）

17:00 開会

（*印の講演者は、主催部等会員）

公開シンポジウム「これからの高校理科教育のありかた」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平成28年6月4日（土） 13：00～17：30
5. 場 所： 東京大学理学部4号館2階1220号室
6. 分科会の開催： 予定なし
7. 開催趣旨： 2016年2月8日に発出した日本学術会議提言「これからの高校理科教育のありかた」を広く社会に発信するとともに、そのより具体的な実現に向けて、多様な立場からの議論を行う場を提供する。
8. 次 第：
 - 13:00～13:20 提言の趣旨説明
須藤 靖*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
 - 13:20～13:50 「日本理化学協会百年の理科教育への思い―理想と現実の中での生徒のためのよりよい教育実践を目指す道―」
菊池 正仁（日本理化学協会事務局長）
 - 13:50～14:20 「テクノロジー企業が期待する 21 世紀の理科教育」
柳原なほ子（前インテル株式会社教育・CSR プログラム推進部部長）
 - 14:20～14:50 「教員養成学部教員として提言をこう受け止める」
富田 晃彦（和歌山大学教育学部教授）
 - 14:50～15:10 休憩
 - 15:10～15:40 「資質・能力の観点からの教育課程の構造化と理科教育」
合田 哲雄（文部科学省初等中等教育局教育課程課長）
 - 15:40～17:20 公開討論
 - 17:20～17:30 まとめ
柴田 徳思*（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本アイソトープ協会専務理事）

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「世代の知をつなぐ地方創生とイノベーション」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会、
若手アカデミー運営分科会
2. 共 催：愛媛大学
3. 後 援：愛媛県、西条市（予定）
4. 日 時：平成28年7月26日（火）13：30～16：30
5. 場 所：愛媛大学 南加記念ホール
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

地方創生のかげ声の下、地域産業の競争力強化による地方の活性化，さらには，その中心となる「ひと」の地方への集積を目的とした「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が推進されている。また，第5期科学技術基本計画の4本の柱のひとつに，企業・大学・公的研究機関の本格的連携とベンチャー企業の創出強化等を通じたイノベーションを生み出すシステムの構築が挙げられており，「地方における産官学連携によるイノベーション創出」は，わが国全体の活性化において重要な意味を持つものと考えられる。ただし，これらの取り組みは，一朝一夕に結果が出るものではないため，長期的ビジョンを共有した世代間連携により，持続的に推進されるべきである。本シンポジウムでは，愛媛における地方創生とイノベーションに焦点をあて，産官学の協働と10年後を視野に入れた展望を議論する。

8. 次 第：

総合司会：高山弘太郎*（日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科准教授）

13:30 【シンポジウムの開催にあたって】

吉田丈人*（日本学術会議連携会員、東京大学総合文化研究科広域システム科学系准教授）

13:35 【開会の挨拶】

大橋裕一（愛媛大学長）

13:45 【基調講演】

「地方創生とイノベーションへの学術の貢献 ～愛媛県の事例から～」

仁科弘重（愛媛大学理事・副学長・社会連携推進機構長，社会連携推進機構植物工場研究センター長，農学部教授）

【事例紹介】

14:10 事例1〔学術〕「紙産業における産学連携」（仮題）

内村浩美（愛媛大学社会連携推進機構 紙産業イノベーションセンター長，農学部教授）

14:25 事例2〔学術〕「食品健康科学における産学連携」（仮題）

菅原卓也（愛媛大学農学部附属食品健康科学研究センター長，農学部教授）

14:40-14:50 休憩

14:50 事例3〔行政〕「愛媛県の取り組み」(仮題)

関口訓央(愛媛県経済労働部産業支援局長)

15:05 事例4〔行政〕「西条市の取り組み」(仮題)

大久保武(西条市企画情報部地域創生室総合6次産業都市推進係長)

15:20 事例5〔民間〕「地方における農業ICTによる起業」(仮題)

遠藤真理子((株)テレファーム 取締役)

15:35 事例6〔民間〕「産学連携による植物診断ロボットの開発」(仮題)

岡田英博(井関農機(株)先端技術部主幹)

15:50 【パネルディスカッション】

司会: 吉田丈人* (日本学術会議連携会員、東京大学総合文化研究科広域システム科学系
准教授)

パネラー: 講演者と学術会議若手アカデミー会員

16:20 【閉会の挨拶】

狩野光伸(日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

16:30 閉会

(*印の登壇者は主催分科会委員)